

# 緊急 トップインタビュー

仙台プロスポーツネット（仙台市）

キャプテン 佐々木 知広さん(64)

各界のリーダーに新型コロナウイルス対策などを聞くシリーズ。今回は在仙プロスポーツ3球団の支援組織の連携を担う「仙台プロスポーツネット」のキャプテン、佐々木知広さん(64)です。



一サッカー、野球、バスケットのいずれも前例のない対応を強いられました。

不要不急の外出自粛が求められた際、プロスポーツの必要性について、選手はもとより、関係者は自問自答したのではないのでしょうか。われわれは2007年の発足以来、地元球団を「仙台の宝物」とたたえています。その意味を改めて考えました。「する」「見る」「支える」という関わり方の中で、プロスポーツは見る、支えるがメイン。私は観戦仲間と会えないのが一番の寂しさであり、そうした時間をくれる球団が街にあること自体ありがたいのだと再認識しました。

## より顔の見える交流 必要



一エクササイズ動画をネットで配信しました。

ステイホームを強いられた子ども向けに、3球団のチアやマスコットが出演する動画を5月半ばから順次6本、配信しました。3球団をつなぐわれわれらしい企画にできたと思います。

一今後の各球団の「地域密着」をどう考えますか。

まずは選手らとの交流の意味が変わってくると思

新型コロナウイルス

ともに  
乗り越えよう

ます。コロナ以前は握手やサインに画一化されていたのが、リモートの浸透で遠く離れた人ともつながれるようになりました。従来の勝利へのこだわり以上に、市民・県民と顔の見えるコミュニケーションが一層求められます。一方で見る側の質も問われます。例えばマスクを着けずに観戦に訪れることは、チームを応援するどころか危うくする。自分たちの球団を自分たちで守る意識が重要です。

### information

コロナ禍で今季は未定だが、仙台プロスポーツネットは地元3球団と連携し、仙台市に転入してきた新住民をホームゲームに無料招待している。詳しくは同ネット事務局の仙台市スポーツ振興事業団022(215)3209へ。